

C—28 和服地の縫製に関する研究(第7報)
—中学生の縫製能率向上について—

福島県立会津短大 佐川 澄子

1. 今回は中学生を対象に母指長の測定と、長さの異なるぬい針を用いてなみぬいし、中学生に適するぬい針の長さを求めることとした。

2. 喜多方第一中学校女子生徒全員 319 名の母指長を測定して、長さによって4分し、その両端に属する長指、短指の生徒 30 名を実験グループとした。時期はまだ学習指導が行われていない4月上旬、所定の方法により、長さの異なる4種のぬい針を用いて、各自の自由なやり方によるなみぬいを5分間行った。

次週は規準通りのぬい方を指導して練習した後2回目を行った。3週目に規準通りで3回目を行った。この場合、ぬい針使用の順序は『なれ』『つかれ』が同一針に集中しないようランダムに使用した。

3. 母指長測定の結果は大学生、高校生よりも上廻ったので、針長：指長の比は低下した比率である。なみぬい実験の結果を長さ、目数、正確率の成績を、前回通りの方法で平均値を求めた。針長：指長の比は8通りあるが、その順序は、長指群の比率 $1 : 0.60 > 0.65 > 0.55 > 0.51$ の順序である。しかし短指群は既に比率 $1 : 0.66$ が最低であって、 $0.71, 0.78, 0.84$ の比率は不適當な範囲に入るので、一般に悪い成績をもたらした。また実施回数間の相関関係は、1回と3回の間が1回と2回の間よりも正相関であった。この結果、中学生の縫製能率を向上させるには、規準の方法によって練習すれば効果があると考えられる。